

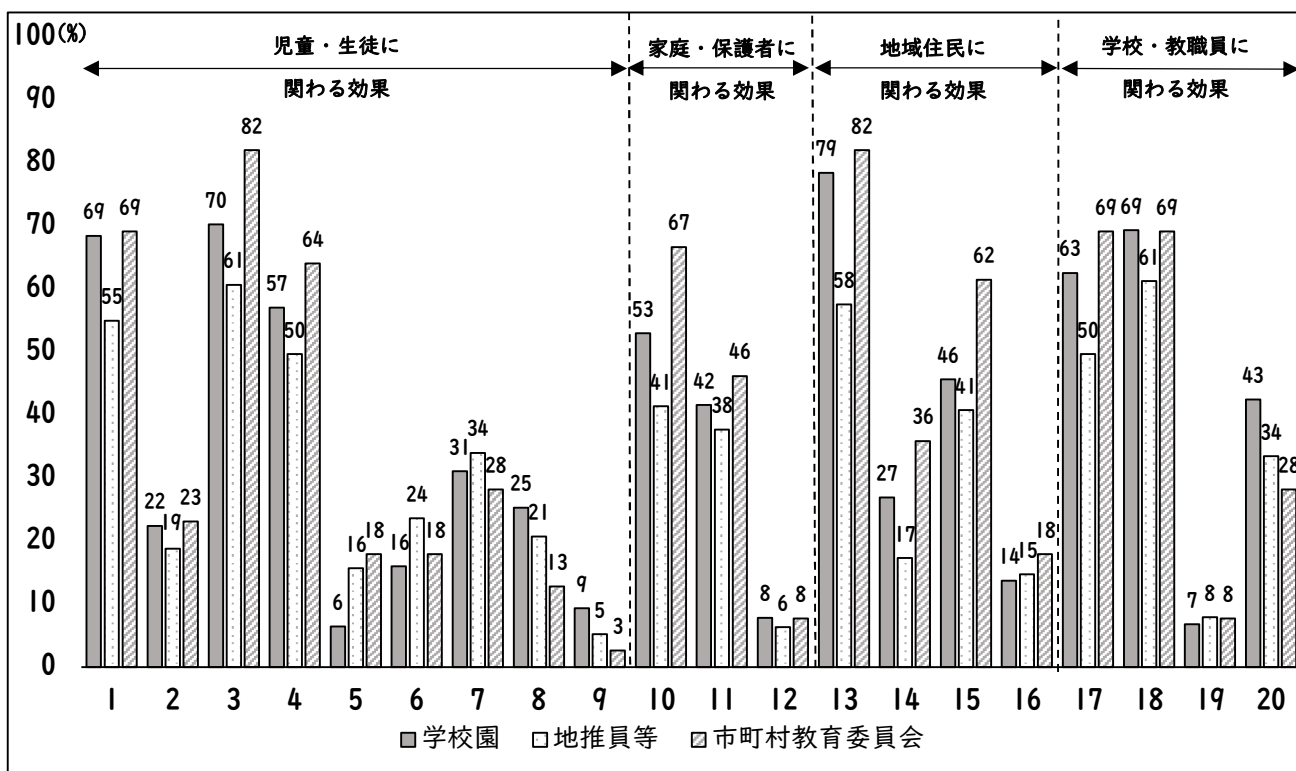
【学校園・地域学校協働活動推進員等・市町村教育委員会共通調査】

令和6年度「地域と共にある学校づくり」に関する実態調査結果

地域学校協働活動の効果について

学校園・地推員等・市町村教育委員会の比較

実施効果について



1. 子どもの学習に対する興味・関心や意欲の向上	11. ボランティアへの保護者の参加者数の増加
2. 子どもの学習習慣の改善	12. 家庭の教育力の向上
3. 子どもがあいさつを積極的に行うこと	13. 地域住民の学校に対する理解の深化
4. 子どもたちのコミュニケーション力の向上	14. 地域の教育力の向上
5. 子どもが自らを律し、進んでいきまりを守ること	15. 地域住民の生きがいづくりや自己実現
6. 子どもがリーダーシップを発揮する場面が増えること	16. 地域住民による地域課題の解決に向けての活動
7. 子ども自身が率先して、人のために行動ができること	17. ボランティアが学習支援を行うことによる教育内容の充実
8. 部活動における技術の向上(中学校・義務教育学校・高等学校のみ)	18. 子どもたちの通学時の交通安全、防犯体制の充実
9. 部活動における参加率の向上(中学校・義務教育学校・高等学校のみ)	19. 子どもたちの問題行動や不登校の減少
10. 保護者の学校に対する理解の深化	20. 教職員が子どもと向き合う時間の増加

学校園、地推員等、市町村教育委員会が効果を感じている内容は、以下の通りです。

【児童・生徒に関わる効果】

- 1 「子どもの学習に対する興味・関心や意欲の向上」
- 3 「子どもがあいさつを積極的に行うこと」
- 4 「子どもたちのコミュニケーション力の向上」

【家庭・保護者に関わる効果】

- 10 「保護者の学校に対する理解の深化」

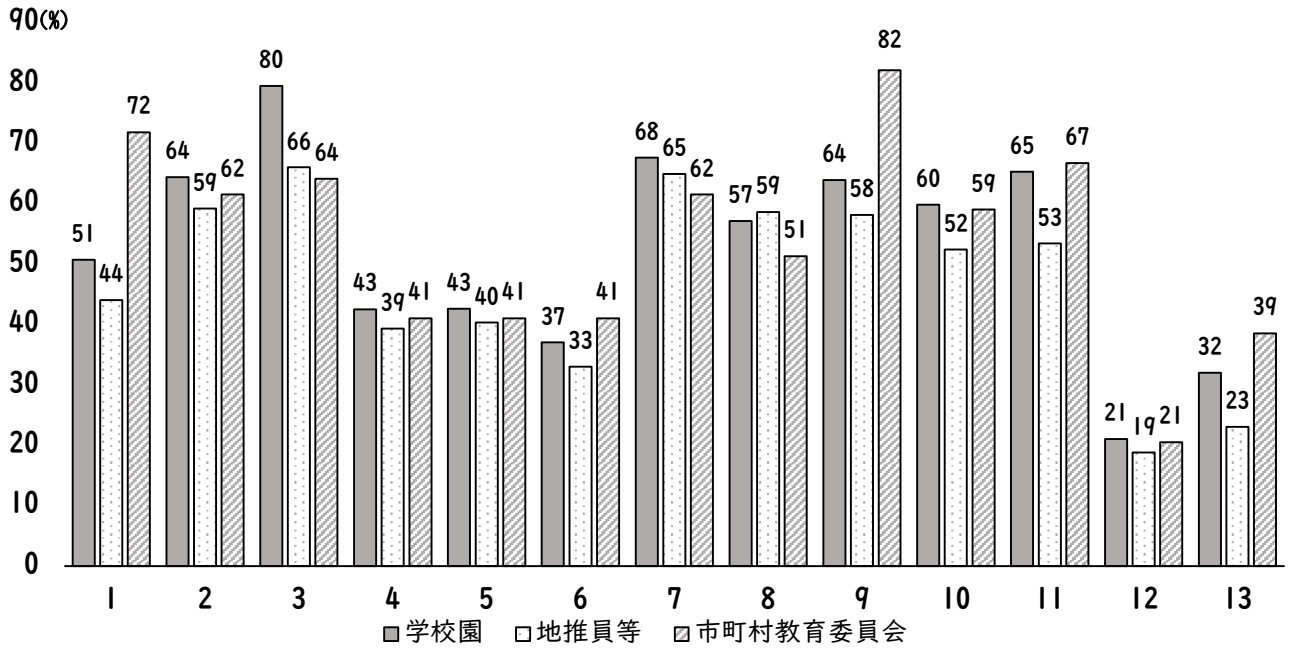
【地域住民に関わる効果】

- 13 「地域住民の学校に対する理解の深化」

【学校・教職員に関わる効果】

- 17 「ボランティアが学習支援を行うことによる教育内容の充実」
- 18 「子どもたちの通学時の交通安全、防犯体制の充実」

効果を生み出す要素について



- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1. 地域学校協働本部における熟議 | 8. 地推員等とボランティアとの円滑なコミュニケーション |
| 2. 学校がボランティアに期待する活動内容の明確化 | 9. 教職員の理解と協力 |
| 3. 学校が望むボランティアの確保 | 10. PTAの理解と協力 |
| 4. ボランティアの力量や意欲 | 11. 地域住民組織等の理解と協力 |
| 5. 活動内容がボランティアの特技や経験を活かしたものであること | 12. 本事業の活動場所を学校内に設置 |
| 6. 地推員等の力量や意欲の向上 | 13. 地域の教育力の向上 |
| 7. 地推員等と学校との円滑なコミュニケーション | |

地域学校協働活動の実施による効果を生み出すためには、9「教職員の理解と協力」、3「学校が望むボランティアの確保」、7「地推員等と学校との円滑なコミュニケーション」、2「学校がボランティアに期待する活動内容の明確化」、11「地域住民組織等の理解と協力」が必要であると感じている学校園、地推員等、市町村教育委員会の割合が高くなっています。

多くの学校において、地域学校協働活動を実施することで、さまざまな効果が感じられています。活動を重ねるにつれて、学校と地域の役割分担が徐々に明確になることで、学校における働き方改革にもつながり、より豊かな教育活動が展開されていることがうかがえます。子どもたちが多くの大人と関わることにより、「認めてもらえる」「楽しい」と実感できる場が増え、子どもたちの「コミュニケーション力の向上」だけでなく「自己肯定感」の向上も期待できます。

地域学校協働活動の実施による効果を生み出す要素は、多岐に渡ります。そして、地域学校協働活動のより良い効果をさらに生み出すために、学校運営協議会と地域学校協働本部のそれぞれの持つ役割を十分に機能させ、一体的に推進し、相乗効果を発揮することが大切です。また、学校園・地推員等・市町村教育委員会の三者が日頃行っている連携をより密にすることで、子どものことを率直に話し合える関係を構築することもできます。各々の役割を明確にした上で地域学校協働活動を実施することが、「子どもの教育課題解決」及び「地域の教育力向上」につながります。